



HOUSE PLUS

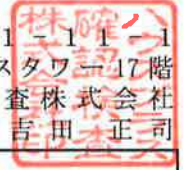
試験結果は以下のとおりであることを証明する。

令和元年8月6日

受付日：令和元年7月25日

受付番号：HP19-KT088

接合部性能試験成績証

東京都港区海岸1-11-1
ニューピア竹芝ノースタワー17階
ハウスプラス確認検査株式会社
代表取締役社長 吉田 正司

1. 接合金物名称	ダイアコーナー
2. 試験依頼者	株式会社 カナイ 〒340-0833 埼玉県八潮市西袋717-1
3. 目的	① 枠組壁工法建築物の接合部の「基準許容応力」及び「基準終局耐力」を試験により評価する。 ② 「基準許容応力」から「降伏耐力」を算出し、「基準終局耐力」との比較結果より、「短期許容耐力」を確認する。
4. 試験内容	「たて枠-横架材」接合部の引張試験 なお、準拠する試験方法・評価方法は2018年枠組壁工法建築物構造計算指針による。
5. 試験体仕様	<p>1) 接合金物</p> <p>「ダイアコーナー」 材 質：SGHC(JIS G 3302)*1 寸 法：(外形)41.67mm×43.5mm×150mm 板厚t=3.2mm 接合具用孔(たて枠側)6-φ6.4mm,(横架材側)4-φ6.4mm 表面処理：Z27*2</p> <p>2) 接合具</p> <p>たて枠側：「鍋頭ねじ(先割れ) φ6.0×75」6本 材 質：下記の化学成分を満足する炭素鋼 C(0.18~0.23%),Si(0.10%以下),Mn(0.70~1.00%), P(0.030%以下),S(0.035%以下),Al(0.02%以上) 寸 法：頭部径φ9.85mm 胴部径φ5.9mm ねじ山径φ6.25mm ねじ谷径φ4.45mm ねじピッチ2.82mm 全長L=75mm ねじ部L=60mm 表面処理：デュラルコート*3</p> <p>横架材側：「鍋頭ねじ(先割れ) φ6.0×150」4本 材 質：下記の化学成分を満足する炭素鋼 C(0.18~0.23%),Si(0.10%以下),Mn(0.70~1.00%), P(0.030%以下),S(0.035%以下),Al(0.02%以上) 寸 法：頭部径φ9.85mm 胴部径φ5.4mm ねじ山径φ6mm ねじ谷径φ4.2mm ねじピッチ2.5mm 全長L=150mm ねじ部L=70mm 表面処理：デュラルコート*3</p> <p>3) 枠組材料</p> <p>たて枠：45mm×89mm×900mm A種構造用単板積層材 すぎ 60E-190F 2本 含水率：7.5~11.5% 全乾密度：0.34~0.37g/cm³</p> <p>下枠：45mm×89mm×700mm A種構造用単板積層材 すぎ 60E-190F 含水率：8.0~9.0% 全乾密度：0.34~0.37g/cm³</p> <p>床合板：89mm×700mm 厚さ24mm 構造用合板 特類2級 含水率：8.0~9.0% 全乾密度：0.43~0.45g/cm³</p> <p>横架材：89mm×89mm×1,000mm A種構造用単板積層材 すぎ 60E-225F 含水率：7.0~8.5% 全乾密度：0.33~0.36g/cm³</p> <p>4) その他</p> <p>たて枠同士の接合：太め鉄丸くぎCN75F @300mm以下 下枠-たて枠の接合：太め鉄丸くぎ2-CN90E 下枠-床合板の接合：太め鉄丸くぎ4-CN90F @200mm以下 床合板-横架材の接合：太め鉄丸くぎ4-CN75F @200mm以下</p> <p>*1 引張強さ270N/mm²以上の鋼板 *2 両面めっき最小付着量275g/m²(3点平均)以上の防錆処理 *3 電気亜鉛めっきEp-Fe/Zn8/CM2C(JIS H 8610及びJIS H 8625)以上の防錆処理</p>
6. 試験条件等	試験体は接合部を実状に合わせた仕様とし、横架材に用いた構造用単板積層材は、たて使いとした。 試験体の設置は、たて枠中心から横架材の両側400mmの位置でM12ボルト、40mm角座金を用い、締付トルク管理値20N・mで鋼製架台に設置した。また、たて枠の横倒れ防止のためサポート治具を設けた。
7. 試験結果	基準許容応力 5.74 kN 基準終局耐力 15.90 kN 短期許容耐力 8.61 kN (詳細については接合部性能試験報告書に示す)
8. 試験場所	ハウスプラス確認検査株式会社 横浜第二試験所：神奈川県横浜市鶴見区矢向1-1-1 10番
9. 試験実施日	令和元年7月29日
10. 試験実施担当者	ハウスプラス確認検査株式会社 評定部 上杉 義則 千葉 博

この接合部性能試験成績証を転載するときは、必ず全文を記載してください。